

日本物理学会第 59 回年次大会

「物理と社会」領域 「研究者の評価をめぐる」シンポジウム

2004 年 3 月 28 日 (日) 午前 9 : 00 - 12 : 05

九州大学箱崎キャンパス YB 会場 (農学部防音 103 号室)

(研究者環境分析委員会・男女共同参画推進委員会の共催*)

2001 年 9 月から 11 月にかけて日本物理学会が行った研究環境に関する学会員へのアンケートについては、女性研究者問題に焦点をあてた分析結果がすでに報告されている。物理学会では、引き続き、「研究者環境分析委員会」を立ち上げて会員全体の研究環境に関する分析を進めてきた。この中から、研究者の業績指標・年齢構成など研究環境のストラクチャーなどが明らかになってきた。

一方、研究者の評価に関しては、科研費の審査システム、大学の評価方法など、さまざま動きがあり、これらを視点に入れながら、人事採用のあり方、研究業績の評価方法など、いろいろな問題が出てきている。また、科学技術総合会議の報告では、研究費審査についても「ピアレビュー」重視から、「外部評価」へのシフトが打ち出されているが、物理学会でも現場の研究者のピアレビューを重視するべきだとの声明も出している。そこで、今回は、研究業績を中心に分析委員会が進めた分析結果を報告し、研究者の評価をめぐる議論をしたい。まず、分析委員会としてのまとめを紹介し、次に、研究評価をめぐる現在の動きをご紹介いただき、さらに、日本の人口動向をにらむと、あと 20 年で深刻な研究者不足の時代に突入すると予想されるが、PD 問題や定年後の研究者の人材活用などを含めて、いろいろな立場からのパネルディスカッションを行う。

	講演 アンケート分析をめぐる	お茶大理	(司会) 菅本 晶夫
1	アンケート分析 1 - 業績指標を中心に 30 分	中大理工	田口 善弘
2	アンケート分析 2 - 研究者の年齢構成を中心に 30 分	東大工	伊藤 伸泰
3	研究評価をめぐる動き 20 分	大学評価・学位授与機構	荒船 次郎
4	まとめ 20 分	愛知大	坂東 昌子
	休憩(15分)		
5	パネルディスカッション 60分	金沢大理	(司会) 青木 健一
	ポスドク問題の立場から	埼玉大理	佐藤 丈
	業績評価の立場から	中大理工	田口 善弘
	研究所の立場から	物質・材料研究機構	長谷 正司
	国立大学の立場から	お茶大理	古川 はづき

* 物理学会のアンケート企画のもうひとつの目標である研究者の研究をする上での環境をめぐる今回は物理学会内の二つの委員会による合同で企画した。